

第4章 障害のある方の地域生活に関する調査（18歳未満）

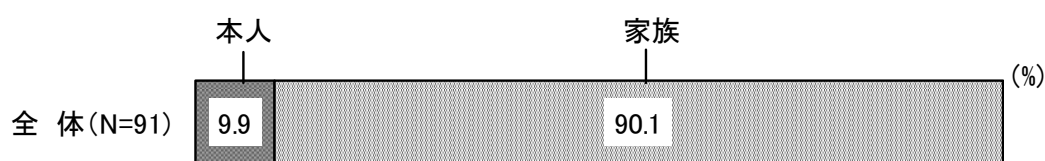
1 基本属性

(1) 回答者（問1）

問1 この調査に回答していただく方はどなたですか。（1つに○）

回答者は、「本人」が9.9%、「家族」が90.1%である。

図表 4-1 回答者（全体）



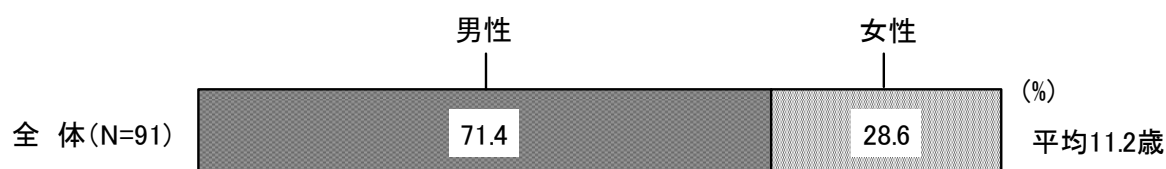
(2) 性別・年齢（問2）

問2 あなた（あて名のご本人）の性別をお答えください。（1つに○）

また、平成25年10月1日現在の年齢をご記入ください。

「男性」が71.4%、「女性」が28.6%である。平均年齢は11.2歳である。

図表 4-2 性別・年齢（全体）

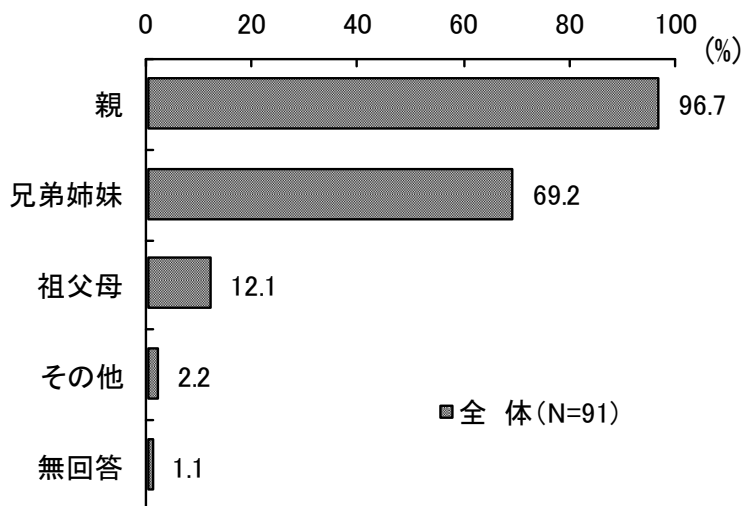


(3) 家族の構成 (問3)

問3 現在、あなた(あて名のご本人)がいっしょに暮らしているご家族は、あなたからみて、どなたですか。(いくつでも○)

「親 (96.7%)」、「兄弟姉妹 (69.2%)」、「祖父母 (12.1%)」の順となっている。

図表 4-3 家族の構成 (全体：複数回答)

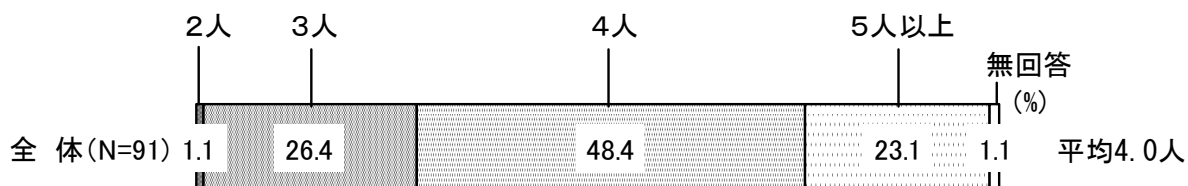


(4) 家族の人数 (問3-1)

問3-1 現在いっしょに暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。数字をご記入ください。

同居家族の平均人数は4.0人である。

図表 4-4 家族の人数 (全体)

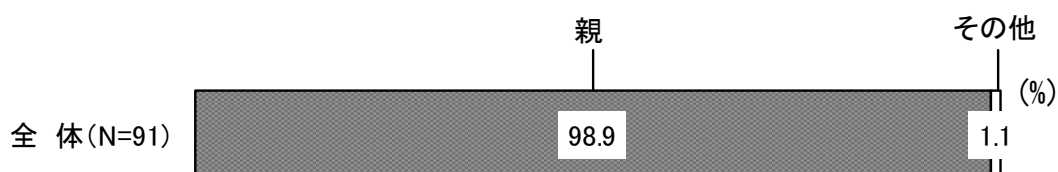


(5) 主な介護者の続柄，性別，年齢（問3-2）

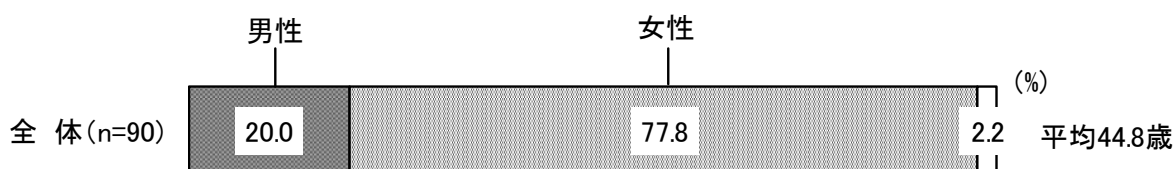
問 3-2 あなた（あて名のご本人）の主に介護や支援，養育をしている方はどなたですか。
あて名のご本人からみた続柄で回答してください。（1つに○）
また，○をつけた方の性別にも○をつけて，年齢をご記入ください。

主に介護，支援，療育をしている方の続柄は「親」が98.9%で，「女性」が77.8%である。平均年齢は44.8歳である。

図表 4-5-① 主な介護，支援，療育をしている方の続柄（全体）



図表 4-5-② 主な介護，支援，療育をしている方（親）の性別，年齢（全体）

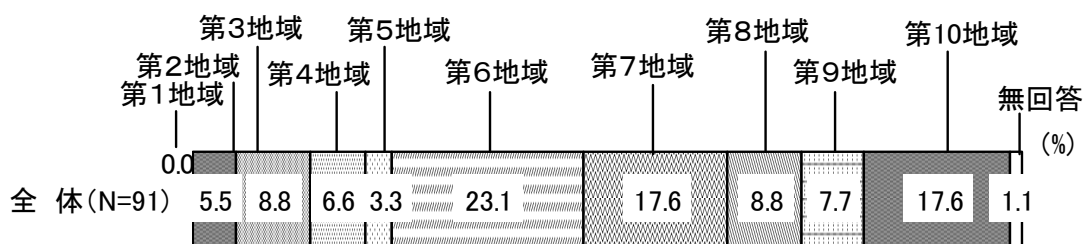


(6) 居住地域（問4）

問4 現在、あなたがお住まいの地域はどこですか。
記入例を参考に【町名】、【丁目】をご記入ください。

「第6地域 (23.1%)」が最も多く、「第7地域 (17.6%)」と「第10地域 (17.6%)」が続いている。

図表 4-6 居住地域（全体）

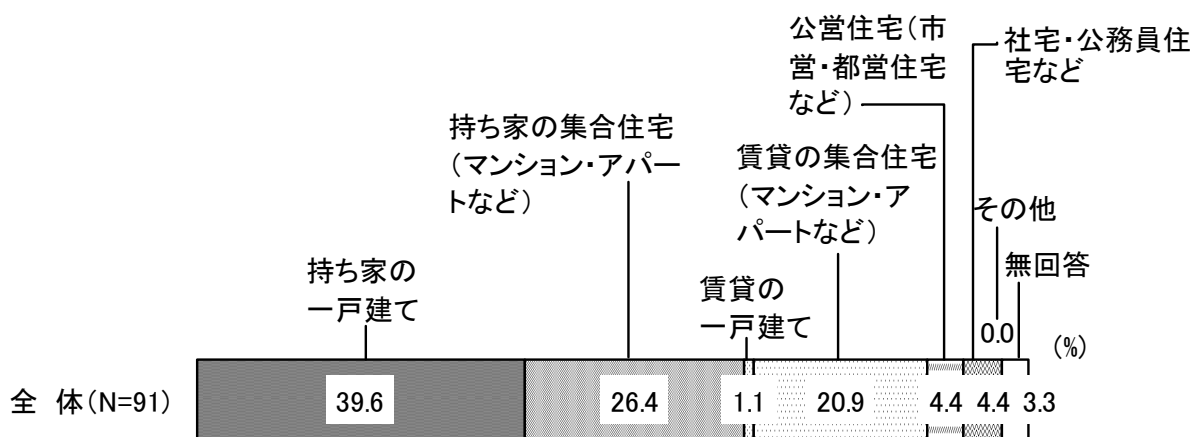


(7) 住居形態（問5）

問5 あなたのお住まいは、次のどれですか。（1つに○）

「持ち家の一戸建て (39.6%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅 (マンション、アパートなど) (26.4%)」が続いている。

図表 4-7 住居形態（全体）



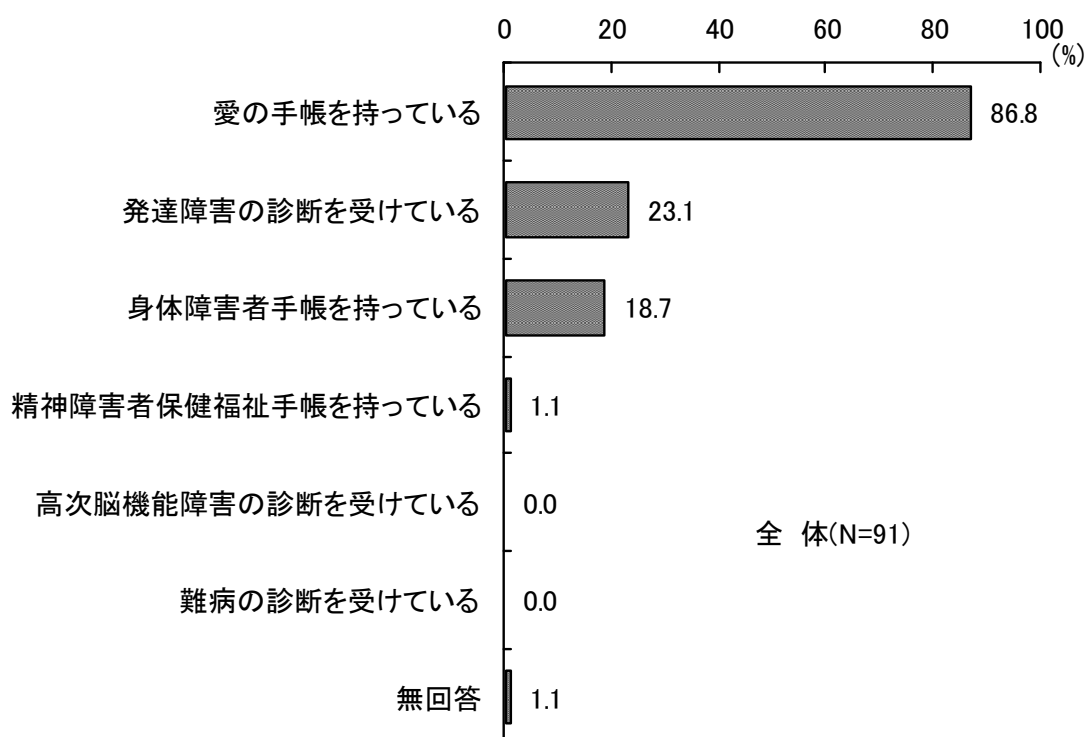
2 身体 の 状 況 と 日 常 生 活

(1) 持 っ て い る 手 帳 の 種 類 と 等 級 (問 6)

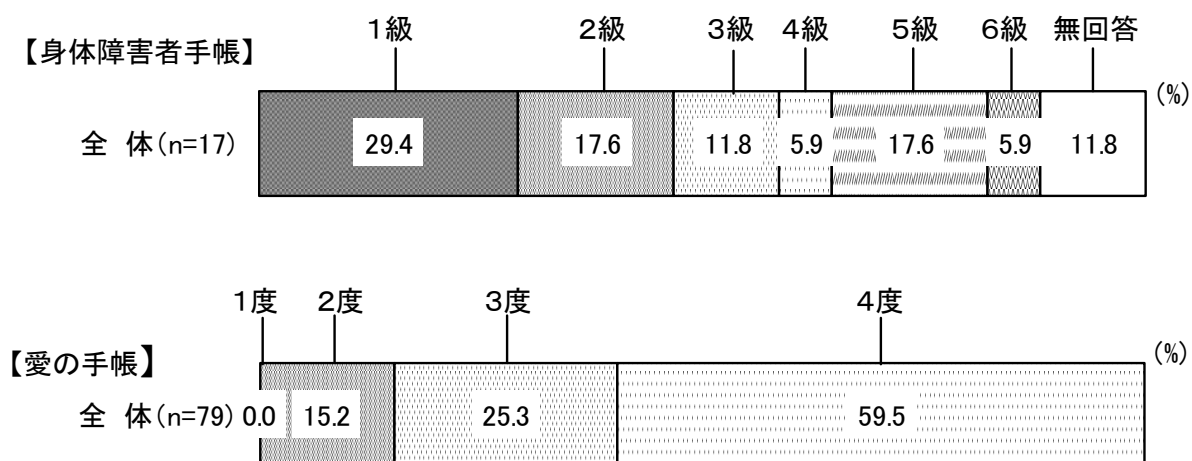
問 6 あなた（あて名のご本人）がお持ちの手帳または受けている診断名について、あてはまるものすべてに○をしてください。また、手帳の等級と診断名をご記入ください。

持っている手帳の種類，診断名は，「愛の手帳を持っている（86.8%）」が最も多く，「発達障害の診断を受けている（23.1%）」，「身体障害者手帳を持っている（18.7%）」が続いている。

図表 4-8-① 持っている手帳の種類と等級（全体：複数回答）



図表 4-8-② 持っている手帳の等級（全体）



(2) 障害の部位 (問6-1)

問6-1 問6で「1. 身体障害者手帳を持っている」と答えた方におたずねします。障害の部位はどれですか。(いくつでも○)

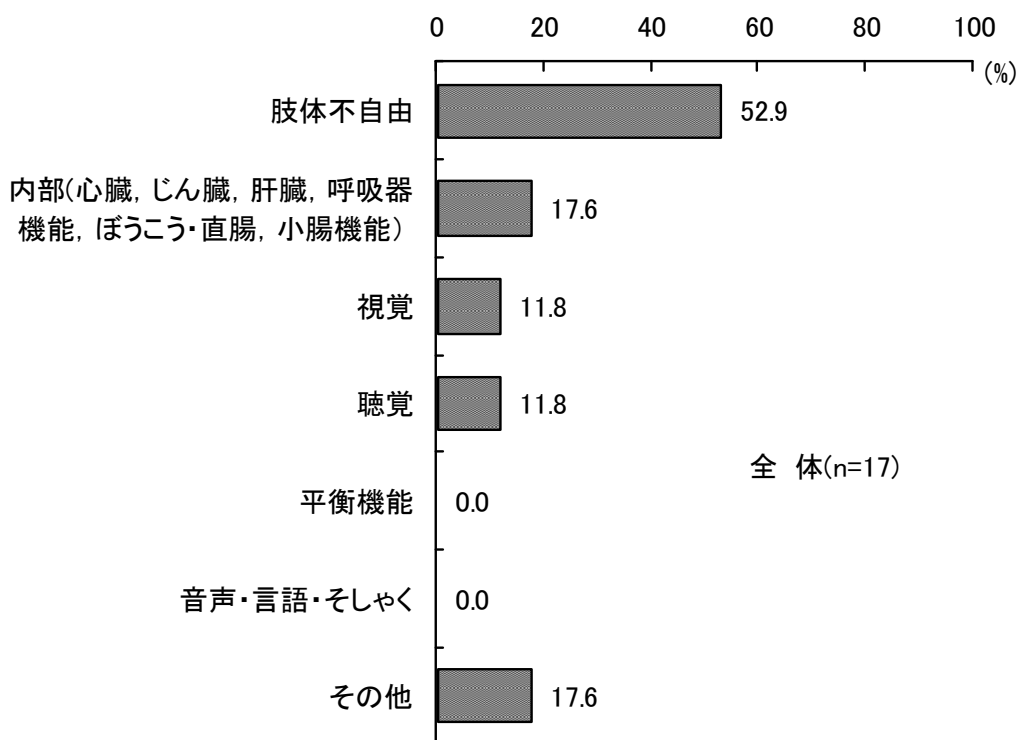
また、○をしたもののうち、主な障害を1つだけ選び◎をしてください。

身体障害手帳を持っている人の障害の部位は、「肢体不自由 (52.9%)」が最も多く、「内部(心臓, じん臓, 肝臓, 呼吸器機能, ぼうこう・直腸, 小腸機能) (17.6%)」と「その他 (17.6%)」が続いている。

主な障害の部位は、「肢体不自由 (41.2%)」が最も多く、「内部(心臓, じん臓, 肝臓, 呼吸器機能, ぼうこう・直腸, 小腸機能) (17.6%)」が続いている。

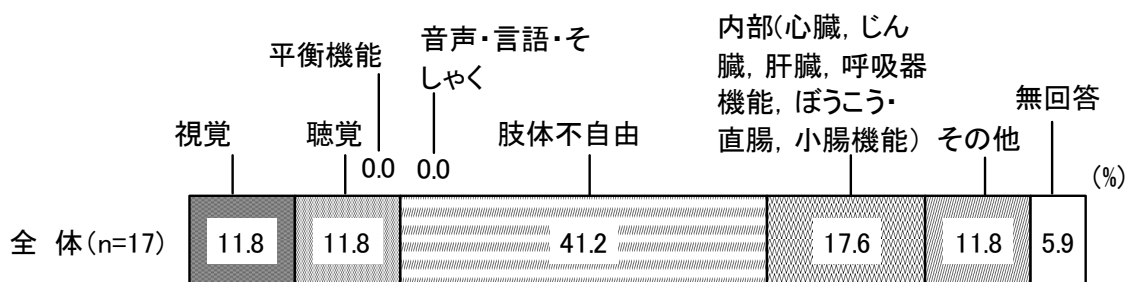
図表 4-9-① 障害の部位 (全体: 複数回答)

<身体障害手帳を持っている人>



図表 4-9-② 障害の部位 (主な障害) (全体)

<身体障害手帳を持っている人>



(3) 日中利用しているサービス（問7）

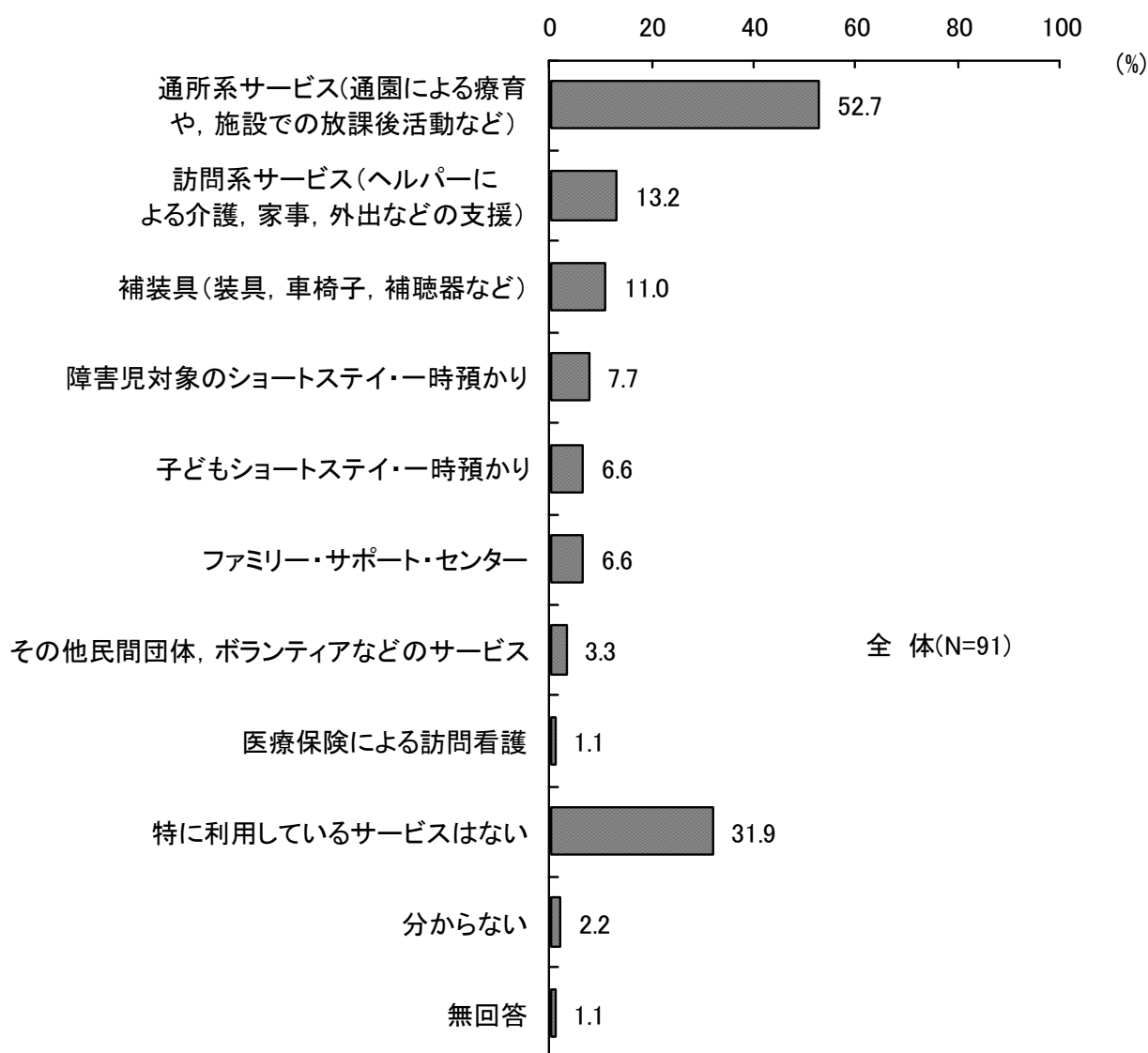
問7 下記の中で利用しているサービスはどれですか。すべてお答えください。
（いくつでも○）

日中利用しているサービスは、「通所系サービス（通園による療育や、施設での放課後活動など）（52.7%）」が最も多い。「特に利用しているサービスはない」は31.9%となっている。

年代別にみると、6歳未満では「通所系サービス（通園による療育や、施設での放課後活動など）」の利用が100.0%となっている。15歳以上では、「特に利用しているサービスはない」が45.0%となっている。

障害手帳の種別にみると、身体障害者手帳を持っている方では、「補装具（装具・車椅子・補聴器など）」の利用が47.1%と他の手帳に比べ高い割合となっている。

図表 4-10 日中利用しているサービス（全体：複数回答）



II アンケート調査の結果

図表 4-11 日中利用しているサービス
(全体, 年代別, 障害手帳の種別)

(%)

		後や(通所外よ(ハ)訪 活、施園出るへ問 動、施系な介ヘル系 など設にサの、家パー の放療によるス 課育)	52.7	13.2	11.0	7.7	6.6	6.6	3.3	1.1
全 体 (N=91)										
年 代 別	6 歳未満 (n=7)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	6 歳以上 15 歳未満 (n=59)	59.3	15.3	10.2	10.2	10.2	8.5	3.4	0.0	0.0
	15 歳以上 (n=20)	20.0	15.0	15.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0
障 害 手 帳 の 種 別	身体障害者手帳 (n=17)	29.4	0.0	47.1	11.8	5.9	11.8	5.9	5.9	5.9
	愛の手帳 (n=79)	58.2	15.2	6.3	8.9	7.6	6.3	2.5	0.0	0.0
	精神障害者保健福祉手帳 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	発達障害の診断を受けている (n=21)	57.1	4.8	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0

		サ 特 一 に ビ 利 ス 用 は し て い る	分 か ら な い	無 回 答
全 体 (N=91)		31.9	2.2	1.1
年 代 別	6 歳未満 (n=7)	0.0	0.0	0.0
	6 歳以上 15 歳未満 (n=59)	28.8	0.0	0.0
	15 歳以上 (n=20)	45.0	10.0	5.0
障 害 手 帳 の 種 別	身体障害者手帳 (n=17)	35.3	0.0	0.0
	愛の手帳 (n=79)	29.1	2.5	1.3
	精神障害者保健福祉手帳 (n=1)	100.0	0.0	0.0
	発達障害の診断を受けている (n=21)	33.3	4.8	0.0

(4) 日中の過ごし方（問8，問8-1，問8-2，問8-3）

問8 あなた（あて名ご本人）は、日中どのように過ごしていますか。
 小学校就学前のお子さまは問8-1，小学校就学以降のお子さまは問8-2，問8-3
 にお答えください。

問8-1 小学校就学前のお子さまにお聞きします。
 あなたは、日中主にどこかに通園・通所していますか。（いくつでも○）

問8-2 小学校就学以降のお子さまにお聞きします。
 あなたが現在通学している学校・学級は次のうちどれですか。（1つに○）

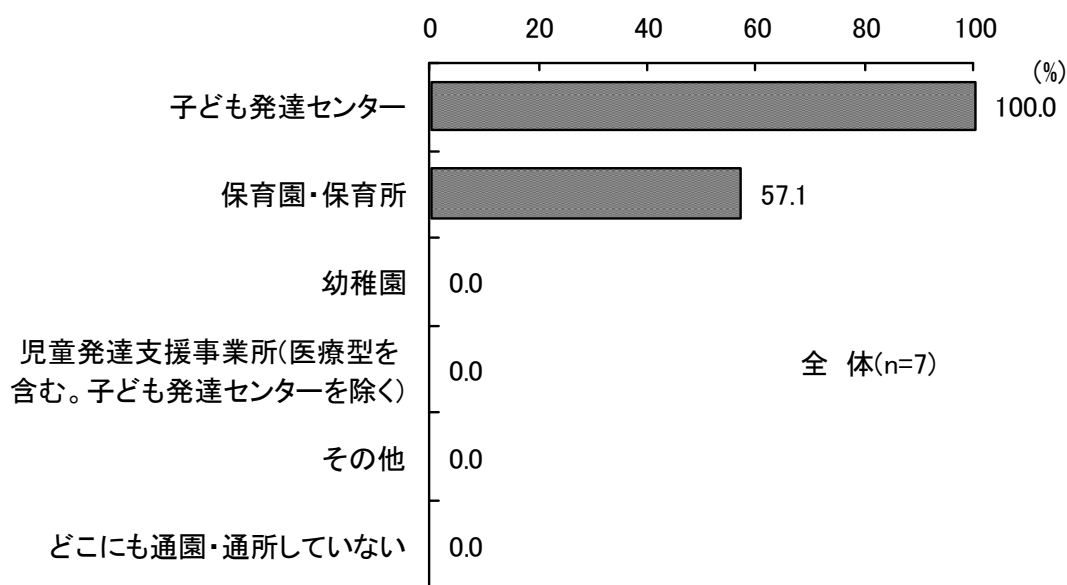
問8-3 小学校就学以降のお子さまにお聞きします。あなたは現在、学校以外の時間でどのよ
 うなサービス、施設等を利用して過ごしていますか。（いくつでも○）

小学校就学前の回答者の日中の過ごし方は、「子ども発達センター（100.0%）」、「保育園・保育所（57.1%）」となっている。

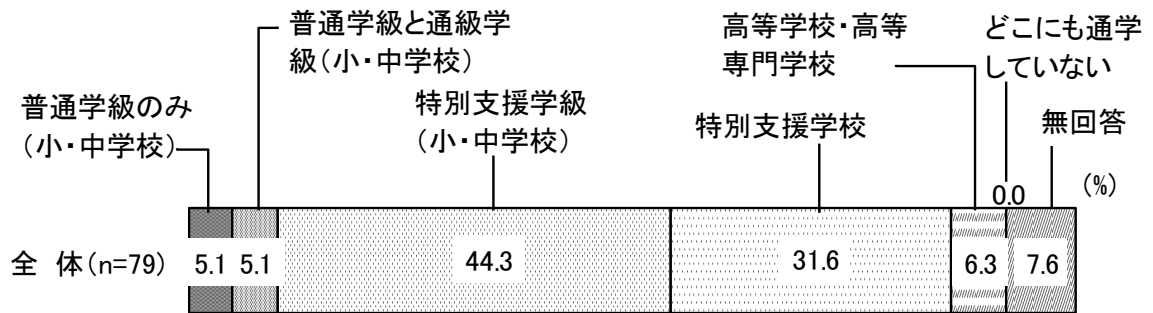
小学校就学以降の回答者の通学している学校・学級は、「特別支援学級（小・中学校）（44.3%）」が最も多く、続く「特別支援学校（31.6%）」と合わせると75.9%となる。

学校以外のサービス、施設等の利用については、「放課後等デイサービス事業所（44.3%）」が最も多く、「民間の相談機関・施設（カウンセリング，フリースペースなど）（10.1%）」が続いている。「特に何も利用していない」は31.6%となっている。

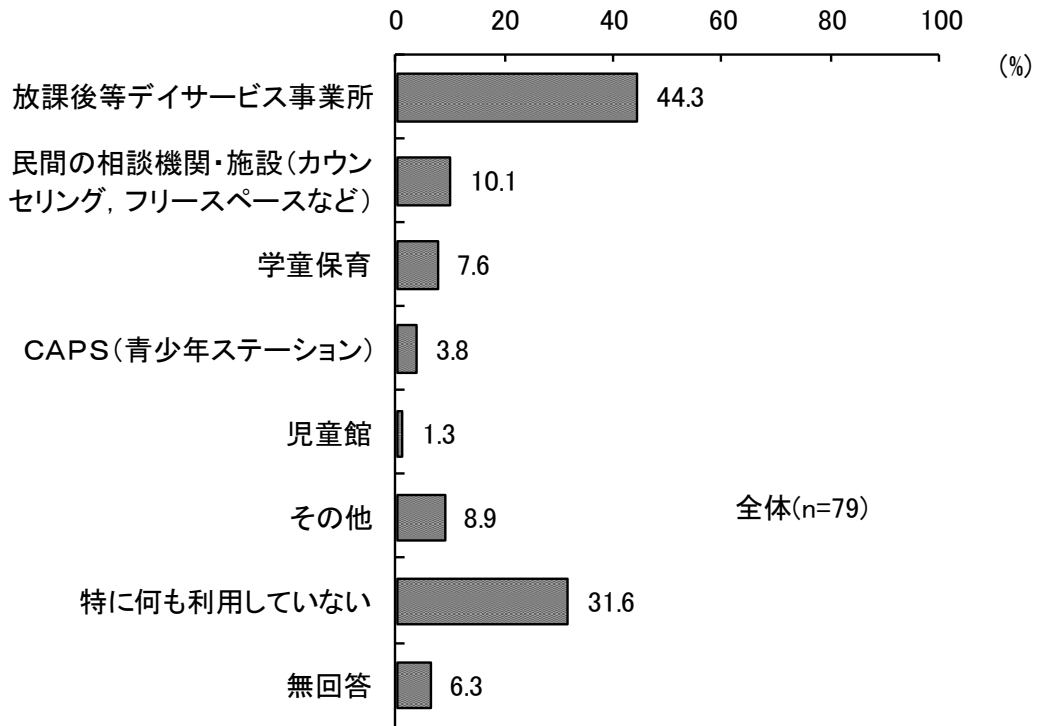
図表 4-12 日中の過ごし方（就学前）（全体：複数回答）



図表 4-13 日中の過ごし方（就学以降）（全体）



図表 4-14 学校以外で利用するサービス、施設（就学以降）（全体：複数回答）



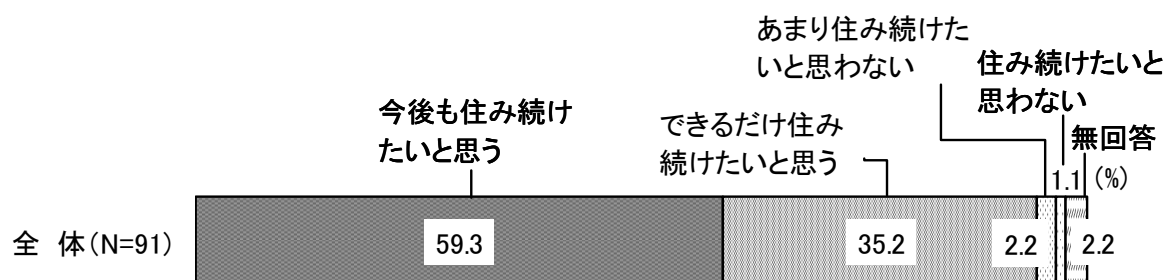
3 保護者と社会・地域とのかかわり，地域福祉活動（保護者対象）

(1) 居留意向（問9）

問9 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は，今後も調布市に住み続けたいと思いますか。（1つに○）

今後も調布市に住み続けたいかたずねたところ、「今後も住み続けたいと思う（59.3%）」が最も多い。

図表 4-15 居留意向（全体）



(2) 居留意向の理由（問9-1）

問9-1 問9で答えた理由を下の欄にご記入ください。

居留意向についての理由を自由記述形式でたずねた。

居留意向のある人は、「持ち家がある」、「慣れ親しんだ土地」、「子どもが慣れている」、「学校，放課後活動，病院など子どもが生活する環境が整っている」、「交通の便がよい」、「環境がよい」、「緑がある」、「出会った人とのつながりが何ものにもかえがたい」、「小さい子どもに対する支援が他市よりも充実している。就学後も期待できる」といった意見が寄せられた。

居留意向のない人で理由をあげた人は1件で、「部屋が狭い。近隣市に養護学校があるのでできればそちらに引っ越したい」というものだった。

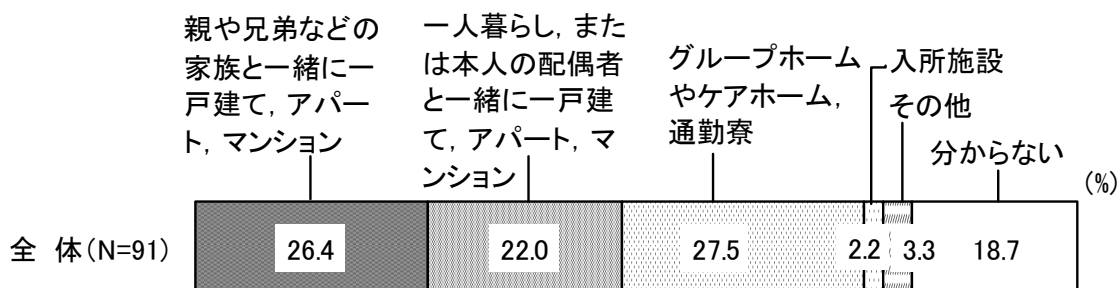
(3) 今後の住居形態の意向 (問 10)

問 10 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は将来、お子さま（あて名ご本人）がどのような住まいで生活することを望みますか。ご希望のお住まい形態をお答えください。（1つに〇）

「グループホームやケアホーム、通勤寮（27.5%）」が最も多く、「親や兄弟などの家族と一緒に一戸建て、アパート、マンション（26.4%）」、「一人暮らし、または本人の配偶者と一緒に一戸建て、アパート、マンション（22.0%）」が続いている。「分からない」が18.7%となっている。

年代別にみると、15歳以上では「一人暮らし、または本人の配偶者と一緒に一戸建て、アパート、マンション（35.0%）」が最も多く、年代で考え方が異なる様子が見えてくる。

図表 4-16 今後の住居形態の意向（全体）



図表 4-17 今後の住居形態の意向（全体、年代別、障害手帳の種別）

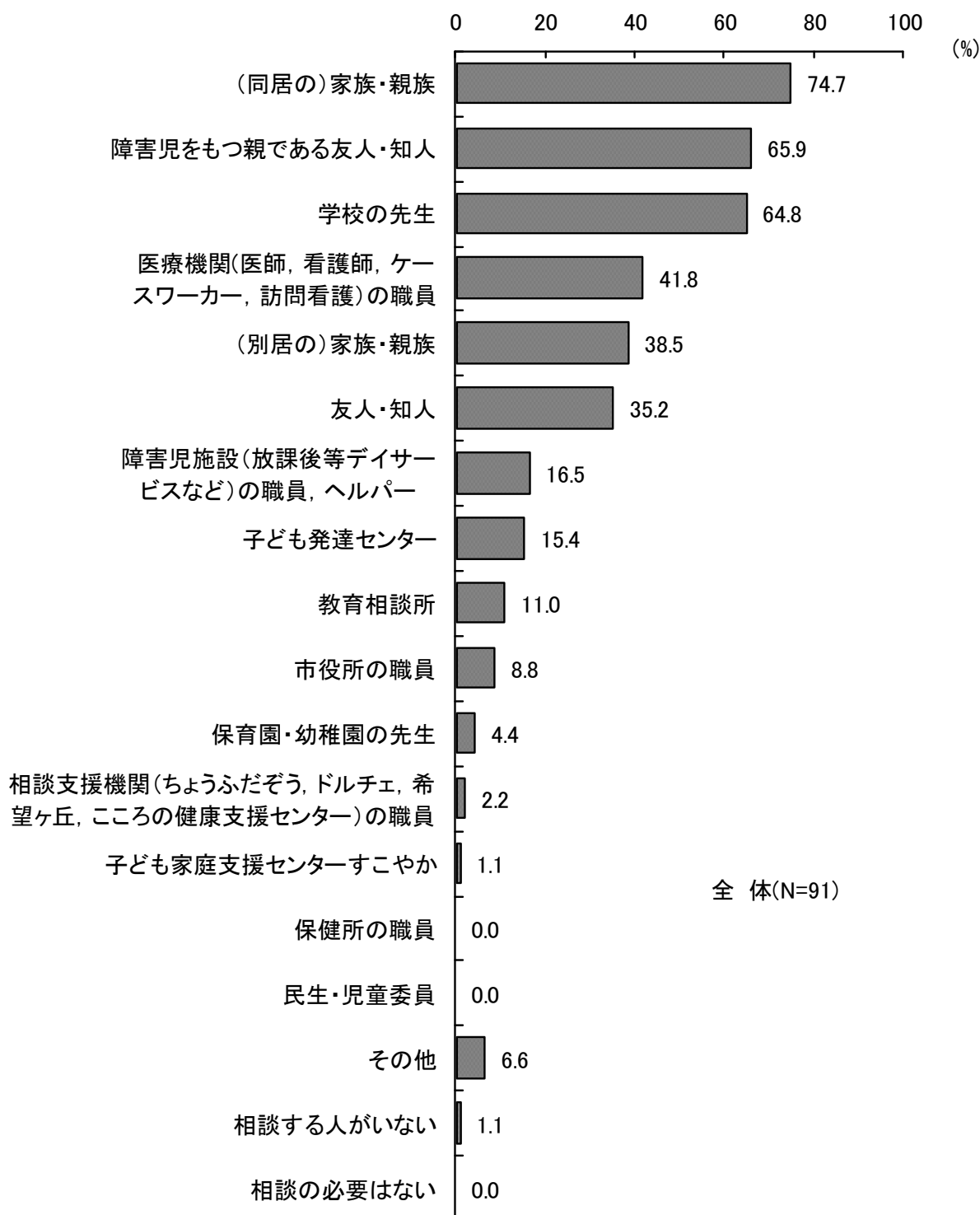
		親や兄弟などの家族と一緒に一戸建て、アパート、マンション	一人暮らし、または本人の配偶者と一緒に一戸建て、アパート、マンション	グループホーム、ケアホーム、通勤寮	入所施設	その他	分からない	無回答
全	体 (N=91)	26.4	22.0	27.5	2.2	3.3	18.7	0.0
年	6歳未満 (n=7)	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0
代	6歳以上15歳未満 (n=59)	25.4	20.3	32.2	3.4	3.4	15.3	0.0
別	15歳以上 (n=20)	20.0	35.0	25.0	0.0	5.0	15.0	0.0

(4) 悩みや困ったことがある場合の相談相手（問11）

問11 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、悩みや困ったことがある場合、主にどなたに相談しますか。（いくつでも○）

「（同居の）家族・親族（74.7%）」が最も多く、「障害児をもつ親である友人・知人（65.9%）」、「学校の先生（64.8%）」が続いている。

図表 4-18 悩みや困ったことがある場合の相談相手（全体：複数回答）



(5) 近所づきあいの状況（問 12）

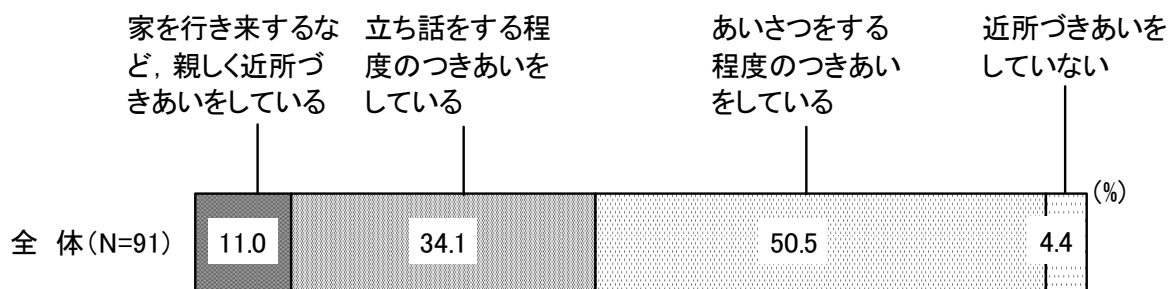
問 12 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、日ごろどのような近所づきあいをしていますか。

日ごろの近所づきあいの状況は、「あいさつをする程度のつきあいをしている（50.5%）」が最も多く、「立ち話をする程度のつきあいをしている（34.1%）」が続いている。

年代別では6歳未満は「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている」が28.6%と高い割合となっている。

地域のつながり感別では、感じる（「とても感じる」と「少し感じる」の合計）は、「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている（20.9%）」、「立ち話をする程度のつきあいをしている（44.2%）」と感じない（「あまり感じない」と「感じない」の合計）に比べ、近所づきあいが活発な様子が見られる。

図表 4-19 近所づきあいの状況（全体）



図表 4-20 近所づきあいの状況
（全体、年代別、地域のつながり感別）

		きど家	いの立	て度あ	て近	無
		あ、を	るつち	いのい	い所	回
		をしき	き話	るつさ	ない	答
		しく来	あを	きつ	き	
		て近す	を	あを	あ	
		い所	る	いす	い	
		るづな	し程	を	をし	
			て度	し程		
全	体 (N=91)	11.0	34.1	50.5	4.4	0.0
年 代 別	6歳未満 (n=7)	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0
	6歳以上 15歳未満 (n=59)	13.6	40.7	40.7	5.1	0.0
	15歳以上 (n=20)	0.0	15.0	80.0	5.0	0.0
感 が つ 別 り な	感じる (n=43)	20.9	44.2	34.9	0.0	0.0
	感じない (n=48)	2.1	25.0	64.6	8.3	0.0

(6) 地域のつながりの必要性（問13）

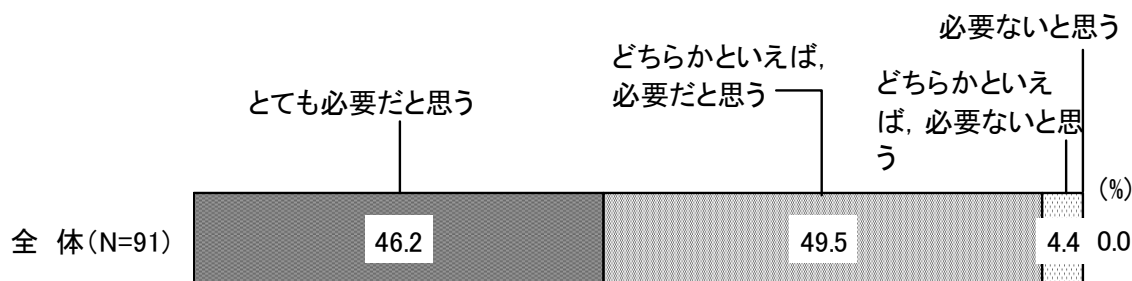
問13 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。（1つに○）

地域のつながりの必要性は、「とても必要だと思う（46.2%）」と「どちらかといえば、必要だと思う（49.5%）」を合わせると《必要だと思う》は95.7%である。

年代別では15歳以上は「とても必要だと思う」が20.0%で他の年代に比べ低い割合となっている。

地域のつながり感別では、感じる（「とても感じる」と「少し感じる」の合計）は、「とても必要だと思う」が53.5%と半数を超えている。

図表4-21 地域のつながりの必要性（全体）



図表4-22 地域のつながりの必要性
（全体、年代別、地域のつながり感別）

		(%)	うと	ばど	うばど	必要	無
			と	ど	ど	な	回
			も	ち	ち	い	答
			必	ら	ら	と	
			要	か	か	思	
			だ	だ	な	う	
			と	と	い		
			思	思	え		
			う	う	思		
全	体 (N=91)		46.2	49.5	4.4	0.0	0.0
年 代 別	6歳未満 (n=7)		57.1	42.9	0.0	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=59)		50.8	45.8	3.4	0.0	0.0
	15歳以上 (n=20)		20.0	70.0	10.0	0.0	0.0
感 が つ 別 り な	感じる (n=43)		53.5	46.5	0.0	0.0	0.0
	感じない (n=48)		39.6	52.1	8.3	0.0	0.0

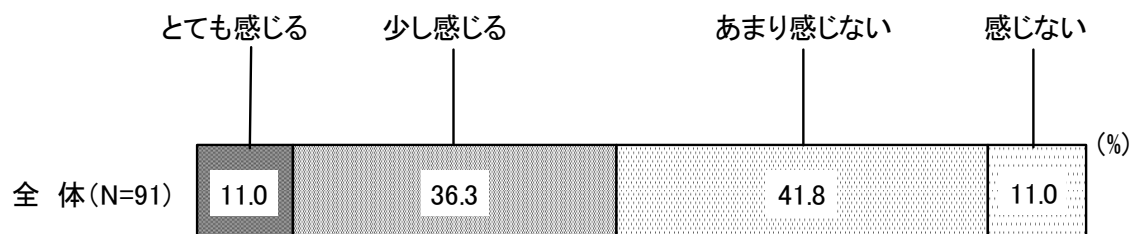
(7) 地域のつながりを感じる程度（問 14）

問 14 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）がお住まいの地域には、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）はあると感じますか。（1つに○）

地域のつながりを感じる程度は、「とても感じる（11.0%）」と「少し感じる（36.3%）」を合わせた《感じる（47.3%）》が、《感じない（52.8%）》（「あまり感じない（41.8%）」と「感じない（11.0%）」の合計）を下回っている。

年代別では、6歳以上15歳未満で「とても感じる」が16.9%と、つながりを強く感じている様子が見られる。

図表 4-23 地域のつながりを感じる程度（全体）



図表 4-24 地域のつながりを感じる程度
（全体、年代別）

		とても感じる	少し感じる	あまり感じない	感じない	無回答
全	体 (N=91)	11.0	36.3	41.8	11.0	0.0
年 代 別	6歳未満 (n=7)	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=59)	16.9	39.0	35.6	8.5	0.0
	15歳以上 (n=20)	0.0	35.0	50.0	15.0	0.0

(8) 地域活動・ボランティア活動の本人の状況と意向、要望（問15）

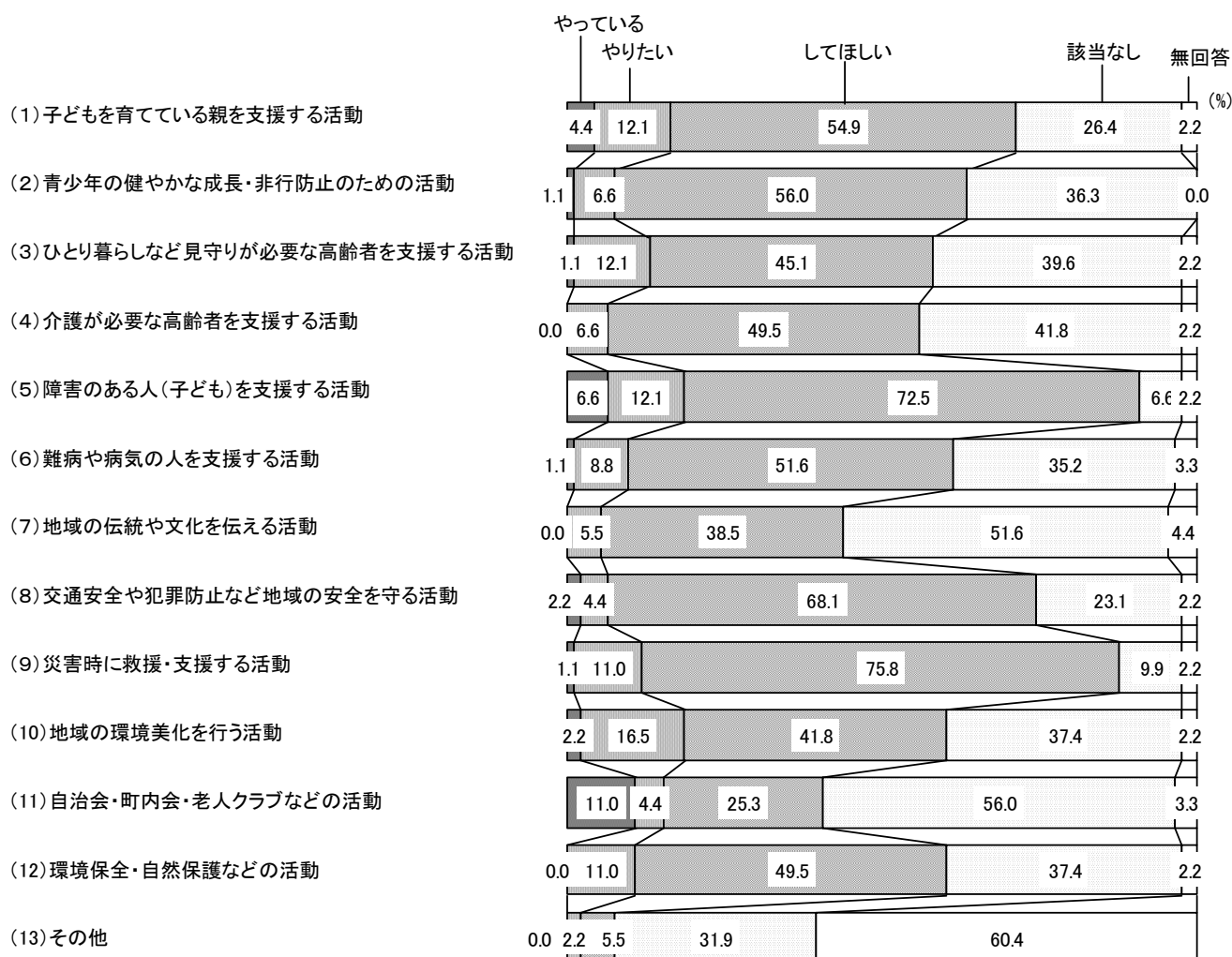
問15 次のような地域活動・ボランティア活動などについて、あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）がやっている活動したい、またはあなた自身がしてもらいたい活動はありますか。特に該当するものがない場合は「4 該当なし」に○をつけてください。

（（1）～（13）それぞれ1つに○）

地域活動・ボランティア活動の本人の状況と意向、要望についてたずねた。「やっている活動」として最も多いのは、『自治会・町内会・老人クラブなどの活動（11.0%）』で、「やりたい活動」として最も多いのは、『地域の環境美化を行う活動（16.5%）』である。

「してほしい活動」として最も多いのは、『災害時に救援・支援する活動（75.8%）』であり、『障害のある人（子ども）を支援する活動（72.5%）』が続いている。

図表 4-25 地域活動・ボランティア活動の本人の状況と意向、要望（全体）



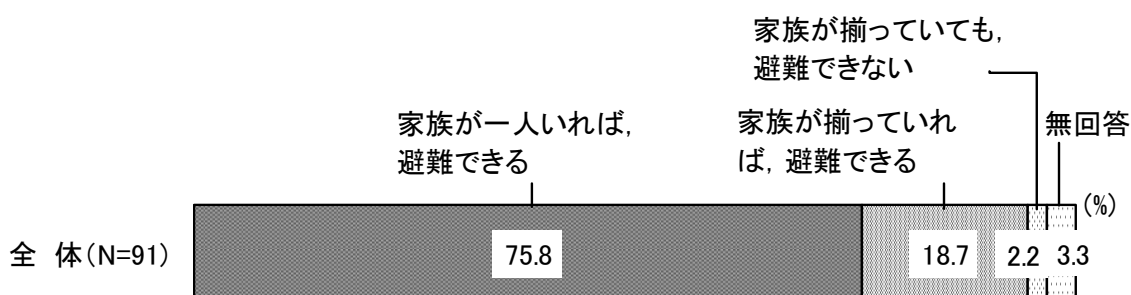
4 災害時の対応（保護者対象）

(1) 緊急時に一人で避難すること（問 16）

問 16 あて名のご本人は、災害や火災などの緊急時に、避難することができますか。（もっとも近いと思うもの1つに○）

災害や火災などの緊急時に避難することができるかたずねたところ、「家族が一人いれば、避難できる（75.8%）」が最も多くなっている。

図表 4-26 緊急時に一人で避難すること（全体）



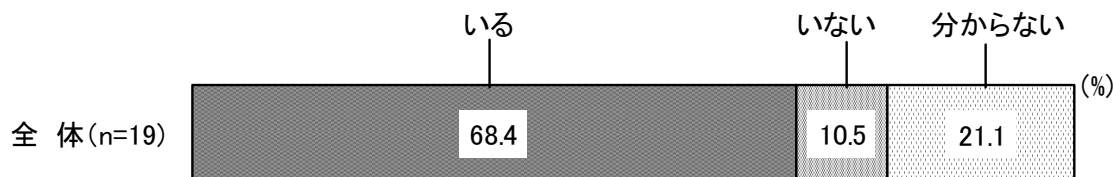
(2) 緊急時の避難の際、手助けを頼める人の有無（いる場合はだれか）（問 16-1）

問 16-1 問 16 で避難できない方（2 または 3 に○）におたずねします。災害や火災など緊急時に避難する際に、手助けを頼める人はいますか。（1つに○）
また、「1. いる」の場合は手助けを頼める人にあてはまるものに○をつけてください。（いくつでも○）

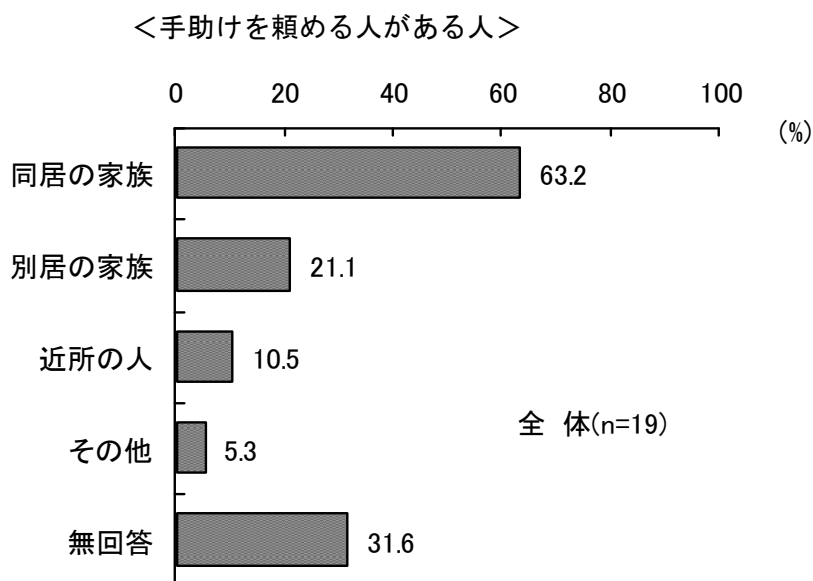
問 16 で緊急時に避難ができないと回答した人に、手助けを頼める人がいるかをたずねたところ、「いる」が 68.4%、「いない」が 10.5%、「分からない」が 21.1%。「いる」と答えた人に頼める人をたずねたところ、「同居の家族（63.2%）」が最も多く、「別居の家族（21.1%）」が続いている。

図表 4-27 緊急の避難の際、手助けを頼める人の有無（全体）

<避難できない人>



図表 4-28 緊急の避難の手助けを頼める人（全体：複数回答）



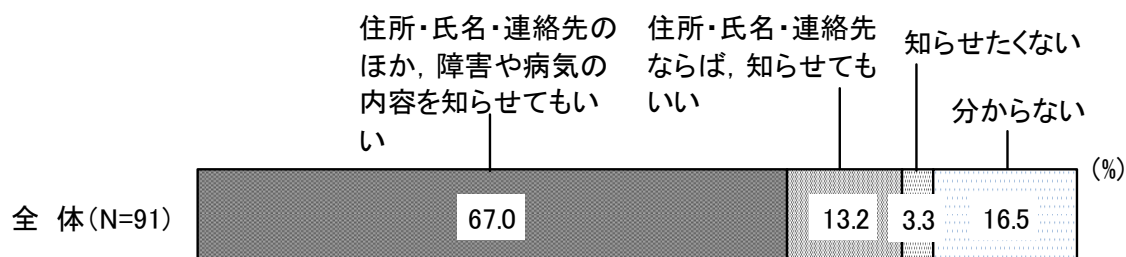
(3) 災害時に備え自治会等に住所等を事前に知らせておくこと（問 17）

問 17 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、災害時に避難を助けたり、避難状況を確認するために、自治会、地区協議会、防災市民組織へ、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか。（1つに○）

「住所・氏名・連絡先のほか、障害や病気の内容を知らせてもいい（67.0%）」が最も多く、「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい（13.2%）」が続いている。年代別でみると、6歳未満では「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい（42.9%）」が4割を超えているが、6歳以上15歳未満では「住所・氏名・連絡先ほか、障害や病気の内容を知らせてもいい」が78.0%と高い割合になっており、子どもの年齢等により状況が異なることがわかる。

障害手帳の種別にみると、身体障害者手帳を持っている方で「住所・氏名・連絡先ほか、障害や病気の内容を知らせてもいい」が82.4%と高い割合となっている。

図表 4-29 災害時に備え自治会等に住所を事前に知らせておくこと（全体）



図表 4-30 災害時に備え自治会等に住所を事前に知らせておくこと
(全体, 年代別, 障害手帳の種別)

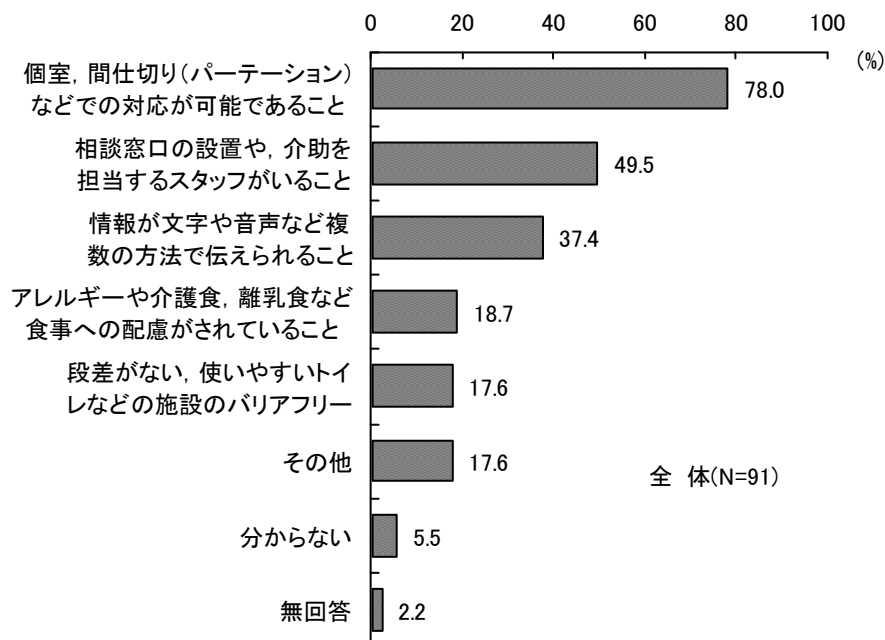
		世帯主・住居のほかに内容を知らせておく	先住者の氏名・住所・連絡先を知らせておく	知らせてくれない	分からない	無回答
全	体 (N=91)	67.0	13.2	3.3	16.5	0.0
年 代 別	6歳未満 (n=7)	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=59)	78.0	8.5	1.7	11.9	0.0
	15歳以上 (n=20)	55.0	20.0	10.0	15.0	0.0
障 害 手 帳 の 種 別	身体障害者手帳 (n=17)	82.4	11.8	0.0	5.9	0.0
	愛の手帳 (n=79)	68.4	12.7	3.8	15.2	0.0
	精神障害者保健福祉手帳 (n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	発達障害の診断を受けている (n=21)	71.4	14.3	9.5	4.8	0.0

(4) 避難所で配慮してほしいこと (問 18)

問 18 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、災害時の避難所でどのようなことに配慮してほしいと思いますか。（いくつでも○）

「個室，間仕切り（パーテーション）などでの対応が可能であること（78.0%）」が最も多く，「相談窓口の設置や，介助を担当するスタッフがいること（49.5%）」，「情報が文字や音声など複数の方法で伝えられること（37.4%）」が続いている。

図表 4-31 避難所で配慮してほしいこと (全体：複数回答)



5 調布市の障害者保健福祉施策（保護者対象）

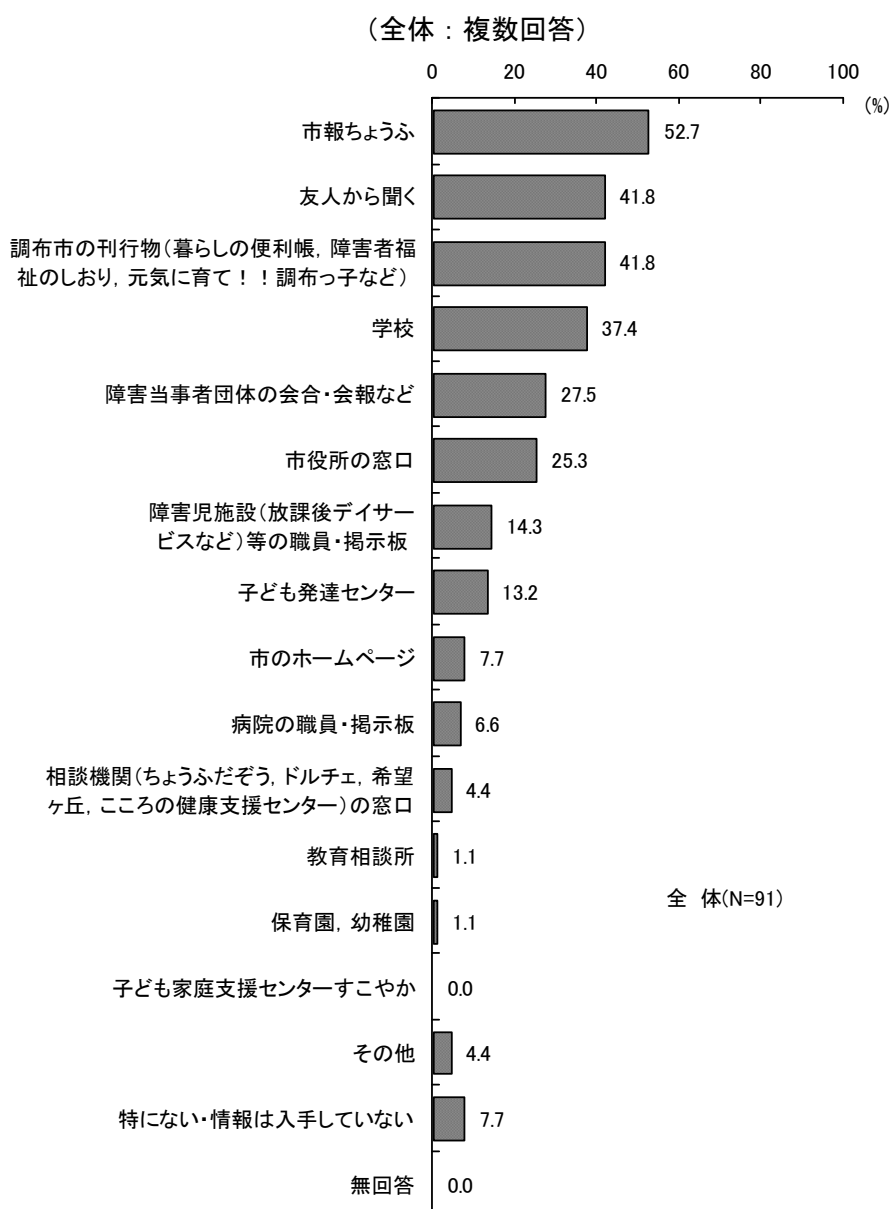
(1) 調布市の障害者保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路（問19）

問19 あなた（あて名のご本人を主にサポートしている方）は、調布市の障害者福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

「市報ちょうふ（52.7%）」が最も多く、「友人から聞く（41.8%）」、「調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉のしおり、元気に育て!!調布っ子など）（41.8%）」が続いている。

子どもの年代別にみると、6歳未満では「子ども発達センター」が85.7%と非常に高い割合となっている。また、15歳以上では「学校（50.0%）」、「市報ちょうふ（65.0%）」、「調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉のしおり、元気に育て!!調布っ子など）（65.0%）」の割合が高く、子どもの年代で情報の入所先が異なる様子がうかがえる。

図表 4-32 調布市の障害者保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路



II アンケート調査の結果

図表 4-33 調布市の障害者保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路
（全体，年代別）

		市報 ちようふ	て祉し調 ！のの布 ！し便市 調お利の 布り帳刊 つ、行 子元障物 など気害（ ）に者暮 育福ら	友 人 か ら 聞 く	学 校	合障 ・害 会当 報事 者団 体の 会	市 役 所 の 窓 口	職イ障 員サ ・掲児 示ス 板な ど） 等 のデ	子 ど も 発 達 セ ン タ ー
全	体 (N=91)	52.7	41.8	41.8	37.4	27.5	25.3	14.3	13.2
年	6歳未満 (n=7)	28.6	28.6	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	85.7
代	6歳以上15歳未満 (n=59)	54.2	37.3	42.4	37.3	32.2	28.8	18.6	10.2
別	15歳以上 (n=20)	65.0	65.0	40.0	50.0	20.0	15.0	10.0	0.0

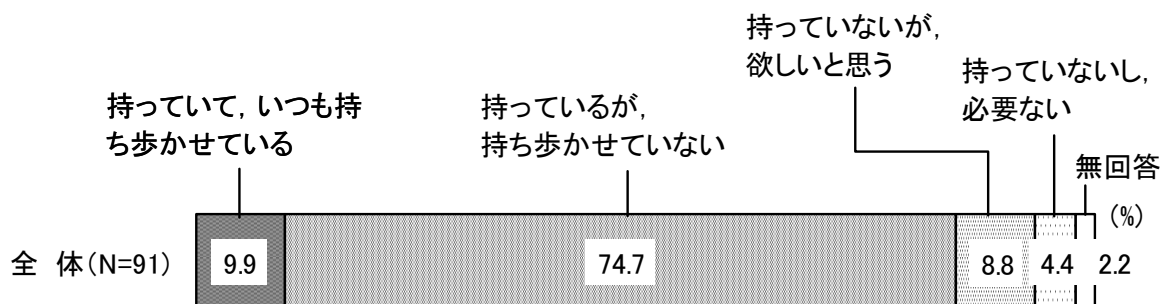
		市 の ホ ー ム ペ ー ジ	病 院 の 職 員 ・ 掲 示 板	援ケぞ相 セ丘う談 ン、機 タ、こド関 ー、ろチへ ののの 窓健、う 口康、希 支望だ	教 育 相 談 所	保 育 園 、 幼 稚 園	タ ー ど も 家 庭 支 援 セ ン
全	体 (N=91)	7.7	6.6	4.4	1.1	1.1	0.0
年	6歳未満 (n=7)	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
代	6歳以上15歳未満 (n=59)	8.5	5.1	1.7	0.0	1.7	0.0
別	15歳以上 (n=20)	10.0	10.0	10.0	5.0	0.0	0.0

(2) ヘルプカードの所持について（問 20）

問 20 あなた（あて名のご本人を主にサポートしている方）は、あて名ご本人に調布市が平成 25 年 8 月より配布しているヘルプカードを持たせていますか（1つに○）

ヘルプカードの所持については「持っているが、持ち歩かせていない（74.7%）」が最も多く、「持っていて、いつも持ち歩かせている（9.9%）」と合わせると《持っている》は 84.6%となっている。

図表 4-34 ヘルプカードの所持について（全体）

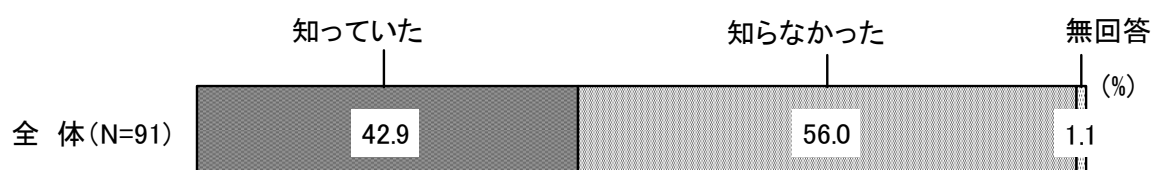


(3) 障害者虐待防止法の認知状況（問 21）

問 21 あなた（あて名のご本人を主にサポートしている方）は、平成 24 年 10 月から「障害者虐待防止法」が施行されたことを、知っていましたか。（1つに○）

障害者虐待防止法の認知については、「知らなかった（56.0%）」が「知っていた（42.9%）」を上回っている。

図表 4-35 障害者虐待防止法の認知状況（全体）



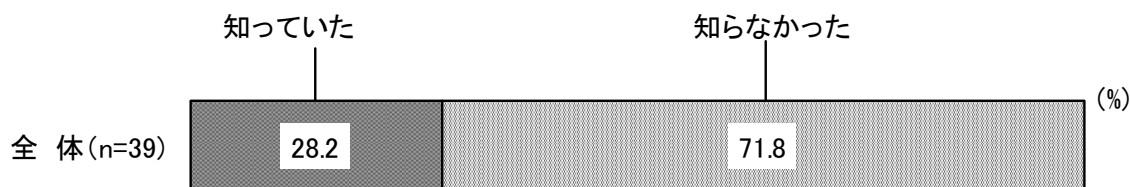
(4) 通報窓口としての障害者虐待防止センターの認知（問 21-1）

問 21-1 問 21 で「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。調布市では障害福祉課が「障害者虐待防止センター」として、障害者虐待の通報窓口となっていることを知っていましたか。（1つに○）

障害者虐待防止法を「知っていた」と回答した人に、通報窓口としての障害者虐待防止センターの認知をたずねたところ、「知らなかった（71.8%）」が「知っていた（28.2%）」を上回っている。

図表 4-36 通報窓口としての障害者虐待防止センターの認知（全体）

<障害者虐待防止法を知っていた人>

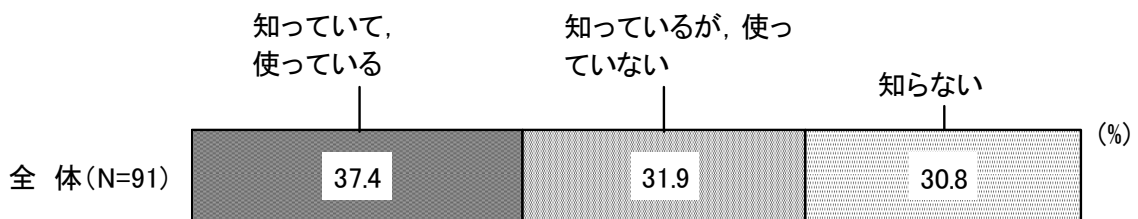


(5) i-ファイルの認知状況（問 22）

問 22 あなた（あて名ご本人を主にサポートしている方）は、調布市が個別配布している、“i-ファイル”を知っていますか。（1つに○）

i-ファイルの認知については、「知っている、使っている（37.4%）」と「知っているが、使っていない（31.9%）」を合わせると、「知っている」のは69.3%である。

図表 4-37 i-ファイルの認知状況（全体）



(6) 市の施策・相談窓口の認知状況（問 23）

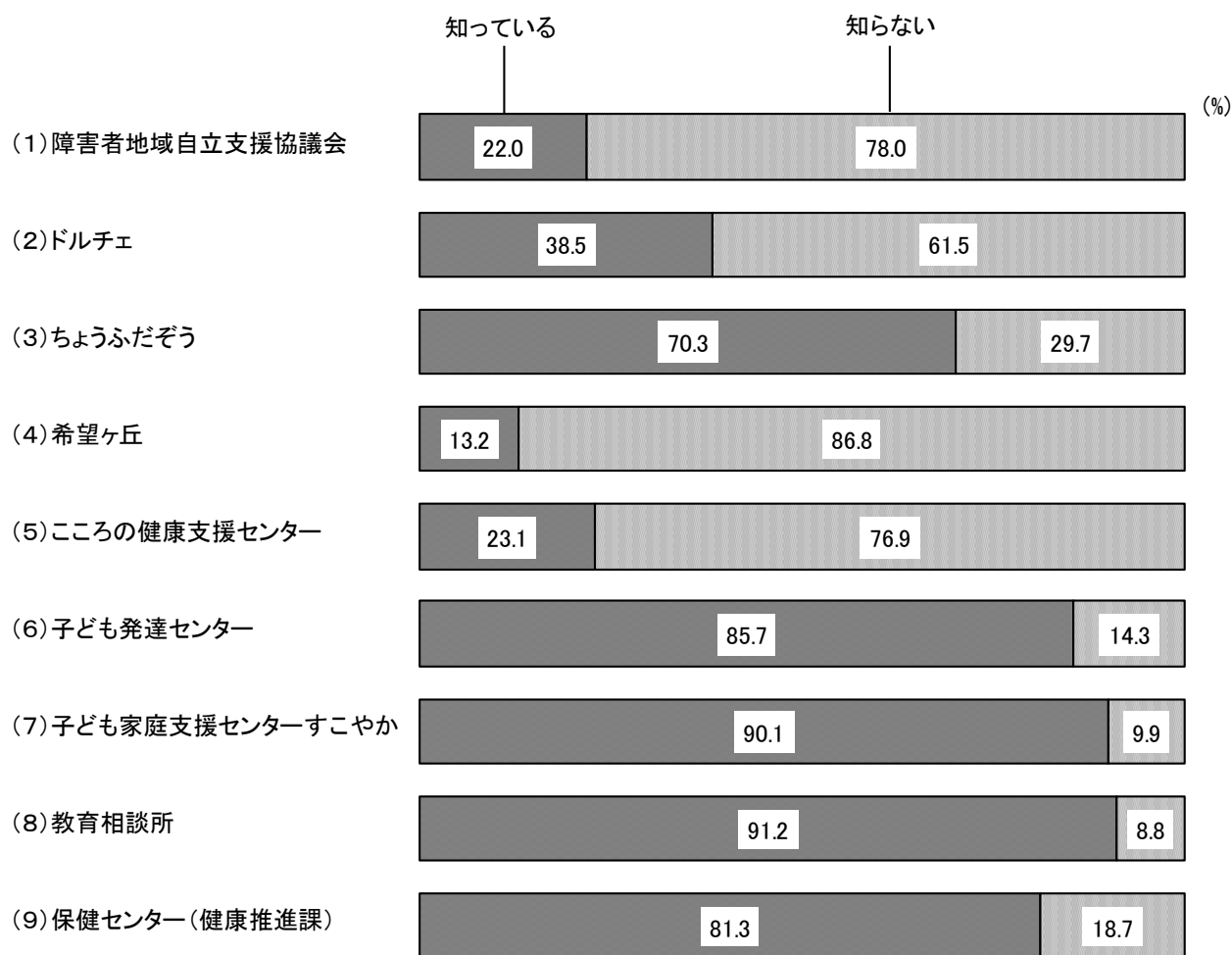
問 23 あなたは、次の調布市の相談窓口などを知っていますか。
（（1）～（9）それぞれ1つに○）

調布市の9つの施策・相談窓口の認知状況をたずねた。

『ちょうふだぞう』、『子ども発達センター』、『子ども家庭支援センターすこやか』、『教育相談所』、『保健センター（健康推進課）』は、「知っている」が7割以上で、特に『子ども家庭支援センターすこやか』、『教育相談所』は「知っている」が9割以上となっている。

『障害者地域自立支援協議会』、『ドルチェ』、『希望ヶ丘』、『こころの健康支援センター』は、「知らない」が6割以上で「知っている」を大きく上回っている。

図表 4-38 市の施策・相談窓口の認知状況（全体）

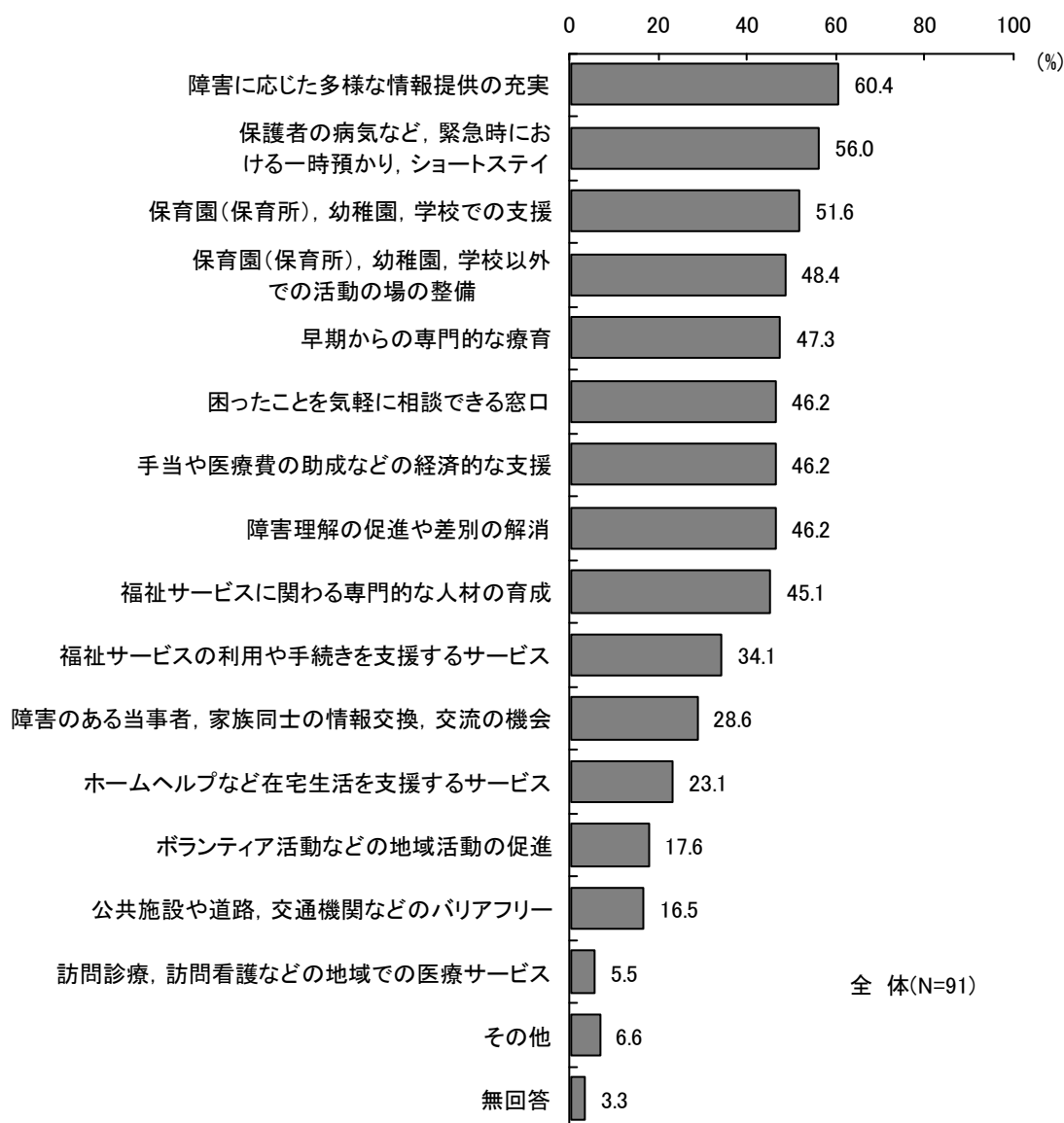


(7) 今後充実を望むサービス（問 24）

問 24 次にあげる障害者福祉に関する取組のうち、あなたが今後調布市で特に充実させてほしいものはどれですか。（いくつでも○）

今後充実を望むサービスは、「障害に応じた多様な情報提供の充実（60.4%）」が最も多く、「保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ（56.0%）」、「保育園（保育所）、幼稚園、学校での支援（51.6%）」が続いている。

図表 4-39 今後充実を望むサービス（全体：複数回答）



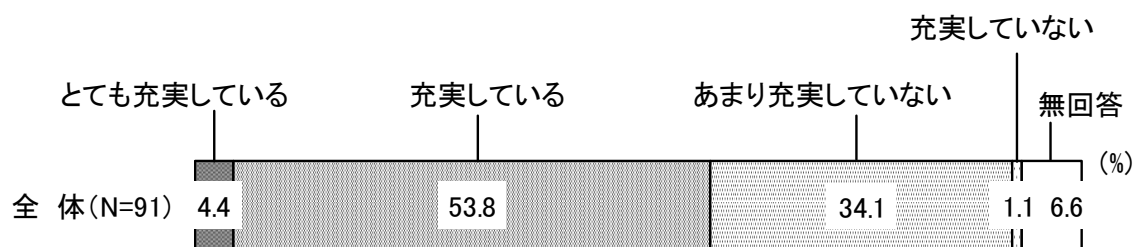
(8) 調布市の障害福祉施策（サービス）の充実についての実感（問 25）

問 25 調布市の障害者福祉施策（サービス）全般について、あなたはどのように感じますか。
（1つに○）

「とても充実している（4.4%）」と「充実している（53.8%）」を合わせると、「充実している」は58.2%となっている。

年代別にみると、6歳未満で「あまり充実していない」が57.1%で他の年代より高い割合となっている。一方、6歳以上15歳未満では「充実している」が75.0%となっており、子どもの年代で実感が異なる様子がうかがえる。

図表 4-40 調布市の障害福祉施策（サービス）の充実についての実感
（全体）



図表 4-41 調布市の障害福祉施策（サービス）の充実についての実感
（全体，年代別）

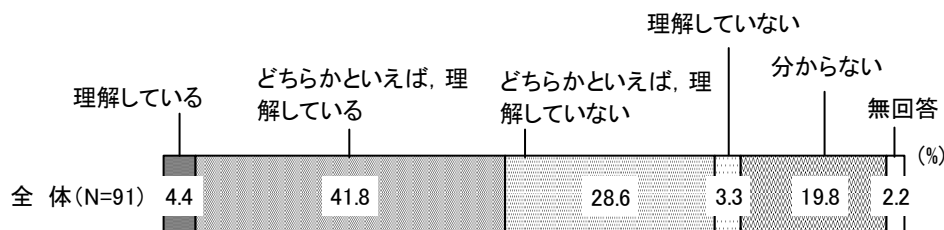
		とても充実している	充実している	あまり充実していない	充実していない	無回答
全 体 (N=91)		4.4	53.8	34.1	1.1	6.6
年 代 別	6歳未満 (n=7)	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=59)	6.8	49.2	33.9	1.7	8.5
	15歳以上 (n=20)	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0

(9) 市民全体が互いの人格と個性を尊重し合う地域社会の実現についての理解
(問 26)

問 26 調布市では、人々が障害者や高齢者への理解を深め、市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう地域社会の実現を目指しています。このような「市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう」という考え方について、あなたの周囲の人は理解していると思いますか。(1つに○)

「市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう」という考え方への理解についてたずねたところ、「理解している (4.4%)」と「どちらかといえば、理解している (41.8%)」を合わせた《理解している》は、46.2%となっている。

図表 4-42 市民全体が互いの人格と個性を尊重し合う地域社会の実現についての理解
(全体)



6 市への要望（問27）

「障害のある方の地域生活に関する調査（障害者調査（18歳未満）」において、障害のある人がいきいきとした生活を送ることができる地域社会を実現するための取組などについての意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、46件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

(1) 障害者（児）施策，市のサービスについて（13件）

- ・個別に一人ひとりにあった支援が可能になるよう専門スタッフの育成に努めて欲しいと思う。親が疲れ切って動けなくなる前にフォローできる体制をつくってください。障害の軽い方の方が生きにくい部分もあると思いますので、よく見てください。（障害子ども，男性，15歳以上）
- ・市報に出ている子どもが参加できる遊び，勉強の場，集まりなど健常児対象という感じにとってしまって，参加してはいけないと思ってしまう。発達障害の家族でも気軽に参加できるものも企画して頂きたいです。（障害子ども，男性，6歳以上15歳未満）

(2) 周囲の理解・相互理解（9件）

- ・障害者はやはり周りの方の理解がとても大切かと思えます。いま支援学校では他の小学校へ交流するときには出前授業を行っています。交流するから出前授業するのではなく，日常的に小さい頃から学ぶと理解が深まるかと思えます。（障害子ども，女性，6歳以上15歳未満）
- ・障害者，高齢者の家族だけでなく健常者を巻き込んで，もっと一般的に活動を広げられればと思う。（障害子ども，男性，6歳以上15歳未満）

(3) 就学後の不安（3件）

- ・就学前の支援などは充実してきている気がするが，成長と共に支援が少なくなっている気がします。放課後デイサービスも何年か空き待ちだったり，中学，高校向きも少なかったり，小学校から入っていないと利用しにくかったりします。長期の休みなどひきこもりがちになりやすく，親子でサポートしてもらえたり，相談できる場所もあると助かります。（障害子ども，男性，6歳以上15歳未満）

(4) 将来の生活について（3件）

- ・障害のある人が成人後（学校を卒業後）に，希望すれば家族のもとを離れてひとりで暮らしたり，働いて自立できる居場所があるといいと思えます。障害者本人やその家族が選択できることが増えると，豊かな人生を送れると思えます。そのためサービスが増えることを望みます。（障害子ども，男性，6歳以上15歳未満）

(5) 施設について（3件）

- ・学校卒業後の作業所の不足解消。足りないケアホーム，グループホームを作ってほしいです。（障害子ども，男性，15歳以上）

(6) 通学支援について（3件）

- ・登下校時の通学支援を考えて欲しい。特に支援学校の高等部はスクールバスもないので，3年間毎日送り迎えをしなければならず，かなりの負担になる。（障害

子ども，女性，6歳以上15歳未満)

(7) 就労支援について (2件)

- ・学校卒業後の就労支援サービスの充実を特に切望しております。(障害子ども，男性，15歳以上)

(8) 幼稚園・保育園の対応 (2件)

- ・幼稚園を希望した時，全ての園に断られました。保育園に入れましたが仕事をしないとダメということで仕事をしたら，病院や療育に費やす時間が減り，親としてとても苦しい3年を過ごしました。心も体も大きく成長する幼少期，障害児への対応が冷たいと感じました。幼稚園への対応をもっと柔軟にしてほしかった。(障害子ども，男性，6歳以上15歳未満)

(9) 市への期待，感謝 (3件)

- ・年々いろいろ良い方に向かっていると思いますので，これからも更に良くなって頂けるように期待しております。宜しく願いいたします。(障害子ども，女性，15歳以上)

(10) その他 (5件)

- ・障害と健常の境目の方についても取り組んでいくと良いと思う。そういう方々の声こそ障害者と健常者の間をつなぐと思います。(障害子ども，男性，6歳以上15歳未満，抜粋)